



# ほほえみいっぱい運動 vol.50 えん通信

健康な生活とご縁は人生の舎



一期一會

## C.W.ニコル

一般財団法人 C.W.ニコルアーファンの森財団理事長  
1940年英國南ウエルズ生まれ。17歳でカナダに渡り北極地域の野生生物調査を行って以降、カナダ政府の漁業調査係官として十数回にわたって北極地域を調査。1962年空手修行の為に来日。1980年に長野県の黒姫に居を構える。1995年日本国籍を取得。作家として活躍する一方、エッセイや講演などを通じて環境問題を発言。2005年英國エリザベス女王より名誉大英勲章を賜わる。2002年財団法人C.W.ニコルアーファンの森財団設立著書に「風を見た少年」「誇り高き日本人でいたい」他多数

冬が近い晩秋の黒姫アーファンの森にC.W.ニコル先生を弟子と共にお訪ね致しました。森と野尻湖、戸隠靈峰、妙高山に囲れたこの地黒姫には、黒姫という美しいお姫様との麓に住む龍の「黒姫伝説」と云う美しく神秘的な悲恋

の物語があります。  
久しぶりにお目にかかった先生は開口一番「パリからの飛行機で偶然お逢いしましたよね。」と懐かしそうにエールフランス航空客室乗務員の妹の弓と勘違いされながら満面の

柔道を英国で学んだとき、後に恩師となる小泉先生と出会い、小さな体で大男の英国人をバタバタ倒していくながらも寡黙で礼儀正しく、思やり深い姿が、遠い異国の人々に心を惹きつけていました。

父狩野誠は拓殖大学在学中に学生出陣によって、陸軍中野学校に進み、義烈空挺隊に志願し、戦後黒姫山麓に夢とロマンと武道で鍛えた体一つで自分の良心に恥ずかしくない生き方をしたいと、開拓者として東京深川から入植致しました。

代用教員として分校で子供達に授業する傍ら空手道を教え、宮沢賢治の詩を生きる希望であると愛読しておりました。自分が病となり野草で克服したことから、野草の開発研究に生涯をかけました。その後分校は草の学校として、父は文道、空手を指導することになりました。

二コル先生にとって父との出会いは、空手道と宮沢賢治を愛し大自然に畏敬の念を抱くという共通の念いが国境を越え、人間同士の絆を強くしたのだと思いました。

二コル先生のお話しさいました。枯葉が落ち、雪の訪れを感じる寒さの中、帰り際車が立ち去るまで見送って下さった先生の姿に体の芯から暖まる思いでした。

雄大な黒姫山が引き寄せてくれたご縁に改めて感謝致しました。

「開拓は荒野の開拓とともに心の開拓である」という父の教えが、遠くの空から聞こえて参りました。



JR黒姫駅は旧駅名を「柏原」といって、一茶のふるさととして賑わっていた。また、ナウマンゾウの野尻湖にも近い。

荒野に灯をともせ  
俺たちは開拓者だ  
荒野を拓くが如く  
理想の狼火を  
一粒の麦を育てる如く  
それがどんなに苦しく  
小さくとも  
愛の灯を



狩野誠

柔道を英国で学んだとき、後に恩師となる小泉先生と出会い、小さな体で大男の英国人をバタバタ倒していくながらも寡黙で礼儀正しく、思やり深い姿が、遠い異国の人々に心を惹きつけていました。

父狩野誠は拓殖大学在学中に学生出陣によって、陸軍中野学校に進み、義烈空挺隊に志願し、戦後黒姫山麓に夢とロマンと武道で鍛えた体一つで自分の良心に恥ずかしくない生き方をしたいと、開拓者として東京深川から入植致しました。

代用教員として分校で子供達に授業する傍ら空手道を教え、宮沢賢治の詩を生きる希望であると愛読しておりました。自分が病となり野草で克服したことから、野草の開発研究に生涯をかけました。その後分校は草の学校として、父は文道、空手を指導することになりました。

二コル先生のお話しさいました。枯葉が落ち、雪の訪れを感じる寒さの中、帰り際車が立ち去るまで見送って下さった先生の姿に体の芯から暖まる思いでした。

雄大な黒姫山が引き寄せてくれたご縁に改めて感謝致しました。

「開拓は荒野の開拓とともに心の開拓である」という父の教えが、遠くの空から聞こえて参りました。